

富士山サイクルロードレース 2025

富士クリテリウムチャンピオンシップ

開催日：2025年3月2日（土）、3月3日（日）

開催地：予選：静岡県航空協会富士川滑空場富士川滑空場特設周回コース
(1.5km)

決勝：富士市追臨港富士線（通称膏葉通り）富士市役所前特設周回
コース(1.8km)

距離：予選 45 km 決勝 54 km

出場：藤井（10位）菅原（12位）児玉（20位）阿見寺（31位）山里（DNF）
中川（交流戦7位）

静岡県は富士市にて富士クリテリウムチャンピオンシップが開催。過去には全員予選落ちしたことがある鬼門のレース。

今年も予選決勝の二日間に分けて開催された。

3月からのロードレースシーズンへ向けてコンディションを確認する事とチームワークを確認することに重きを置いたレースと位置付けた。

～予選～

1組目

山里、児玉、中川が出走。結果から言うと25人が通過できる予選で中川が36位予選通過ならず。1組目は他の組と違い実力者が多く無念の交流戦へ回ることに。

2組目

菅原、藤井が出走し難なく予選通過。

3組目

阿見寺、仙洞田も無事予選通過。

2組目、3組目は力のない選手が次々とドロップし早々に25名が確定したのに対し、1組目は力が拮抗していたためゴールラインを切るまでは誰が予選通過するのかが決まらない激しいレースとなった。

このレースでエースを任される山里は25位通過とギリギリでの通過。日本代表のメンバーが予選で落ちる波乱などもあった。

今回はパワーバランスが等しくなるように組み分けをお願いしたい。

～交流戦～

中川の単独発走となり、距離は決勝の半分の27キロで争われた。

特に大きな展開もなくゴールスプリントに持ち込まれ7着フィニッシュ。

去年は怪我に泣いた中川、今年は春から調子が良いので今後に期待です。

～決勝～

6名が決勝に上がった我々は山里のスプリントで上位を狙うべくレース作戦を練る。

逃げで勝負したい菅原、藤井、阿見寺は積極的に展開。

児玉、山里は集団待機し仙洞田は二人から離れないように指示。

30周 54kmの短期決戦が始まる。

スタートから次々と抜け出しの動きがあり、菅原、藤井の2名でほとんどを捌いていく。

阿見寺は勝ちに繋がる動きに対応すべく常に良い位置にポジショニング。

児玉、山里、仙洞田はセットで動き後ろで温存。

動いたのは12周目

群馬グリフィン・林原選手

VC福岡・横塚選手

ヴィクトワール広島・白川選手

レバンテフジ静岡・床井選手

4名が抜け出して先行。

藤井、菅原が動いた後の展開だったのでここには対応できなかったがシマノレーシングがコントロールを開始して集団は落ち着く。

時折ブリヂストンが牽引した際はぐっとペースが上がり一列棒状になるが基本はシマノレーシングの程良いペースで距離を消化していく。

16周目に集団が割れた時は肝を冷やしたが何とか一つにまとまり最終局面へ。

阿見寺を先頭に隊列を組み残り2周。集団の中ほどで落車が起きエースの山里を失ってしまう。救済処置の適応も出来ない周回数でそのままレースを降りることに。

(その後緊急搬送され打撲と擦過傷の診断。脳に異常はありませんでした。)
隊列はバラバラになってしまい各自最終局面に挑む苦しい展開に。

最終コーナーを25番手付近で曲がった藤井、菅原であったが最後まで踏み辞めず10位、12位でフィニッシュ。児玉20位と続いた。

優勝はブリヂストン松田選手。2位3位にシマノレーシング中井選手石原選手

と続いた。

～藤井談～

正直予選の方が厳しいレースだった。決勝は自由に動き回ることが出来た。逃げにチャレンジしたその次の動きで抜け出しが決まってしまうたり、カウンターで危険な動きがあったりもしたが何とか耐える事が出来た。一心の落車で誰が勝負するか迷っているうちにスプリントになってしまった。まだ余力があったのでみんなに声をかけて手伝ってもらえたらもっと上の順位を目指せたと思う。

次は宇都宮で結果を求めて走ります！

～監督談～

選手の成長が目に見えるレースでした。2年前は誰も予選通過できなかったレースで6名通過。中川は予選通過出来なかったが自由に動いていたので悲観はしていません。

決勝での山里の落車は痛手ですが、他メンバーの動きは成長を感じました。